

# あおぞら

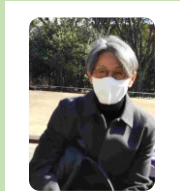
発行:愛知県被災者支援センター  
住所:名古屋市東区泉 1-13-34  
名建協 2階  
TEL:052-971-2030  
FAX:052-971-2050  
開館:月曜～金曜 10時～17時



## 【東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや 2024】



(あいさつ)「東日本大震災の経験を活かし、今後の災害に備えること…元旦に能登半島地震が起きて多くの方が亡くなりました…もっともっと、経験を活動に生かす流れを…」



夜の部は高校生たちの合唱や宣言も



避難者の方たちも参加され、まずは「元気?」と近況報告

### 「令和6年能登半島地震」 災害義援金・支援金

- ★石川県 義援金口座振込み  
銀行振込:北國銀行 県庁支店  
口座番号:普通預金 28593  
口座名義:石川県令和6年能登半島地震災害義援金  
ゆうちょ銀行 口座番号:00100-8-452361  
口座名義:石川県令和6年能登半島地震災害義援金
- ★富山市 銀行振込:北陸銀行 本店営業部  
口座番号:普通預金 6167282  
口座名義:富山市災害義援金  
ゆうちょ銀行 口座番号:00120-7-515780  
口座名義:富山市災害義援金

### もくじ

- P1. 表紙:東日本大震災犠牲者追悼式 写真
- P2～3. 交流会報告(ふくしま交流会、あおぞらカフェ「手作り豆乳をつくらう」)
- P4. 能登半島地震支援 ボランティア活動報告他
- P5. 投稿/ユースの眼「自分と他者の苦痛をまなざす」
- P6. おすすめの一冊①『イスラエル軍元兵士が語る非戦論』、②『侵略日記』
- P7. 愛知県被災者支援センター・2023年度活動のまとめ
- P8. 【支援情報】能登半島地震避難者支援ネットワーク あいち、名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンター、ウクライナ避難者の近況、レシピ、編集後記

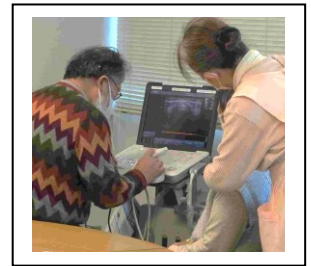
## 甲状腺エコー検診&交流相談会・ふくしま交流会 2/3 (@豊橋市・ライフポートとよはし)

予定会場とスケジュール調整等の関係で、同交流会の実行委員の皆さんとの打ち合わせを重ねて、「ふくしま交流会」を無事開催することができました。参加者は避難者7世帯14名、民医連の早川医師他、在宅保健師、送迎ボランティアも含め総勢24名で、ちょうど節分の日の豆まきもにぎやかに行いました。

### 《アンケートより》

#### ①甲状腺エコー検診（民医連医師・在宅保健師による）

- ・初めての甲状腺検診、異常なし(M)
- ・早川先生が毎回見えてくださり感謝で顔を見るとホッとしました(H)
- ・甲状腺検査を病院へ行くことなく受けられて、本当にありがたいです(A)



#### ②節分の豆まき・クラフト細工&ハーブ・アロマ手浴で癒し

- ・アロマもよかったのでいやされました。ありがとうございました(M)
- ・なかなかリラックスすることを考えていなかった生活でしたので、今回のアロマの手浴は、とても良かったです(T)
- ・豆まき、楽しいことを考えてくださってありがとうございました(T)



#### ③交流会全体

- ・久しぶりの顔ぶれに会い、和やかな雰囲気でもかったです(H)
- ・とても楽しかったです。いろいろとありがとうございました。また参加させていただきます(M)
- ・リラックスできる空間でした(F)
- ・なかなか交流できない被災者の方もいると思うので、その人たちにもぜひ参加してほしいと思います(I)





## あおぞらカフェ「手作り豆乳を作ろう」 2/17(土)10:00~13:00 (@RSY)

今回の「あおぞらカフェ」では、中国出身の工藤福一さん(港区在住)にお得意の「手作り豆乳」を教えてくださいました。参加者は6世帯6名でした。参加者も交代で作業にあたり、出来立ての豆乳は甘くて大豆の香りがして、「とてもおいしい!」と大好評でした。今回は、工藤さん持参の豆乳等を作る専用のポットを使用しました。

### <豆乳の作り方>

- ①大豆 100g を前日からボールで水に浸しておく。
- ②当日大豆を洗い、(ミキサーに似た)豆乳を作る器具に、分量(360cc)のミネラルウォーターと共に投入。
- ③数回に分けて、大豆を粉碎する。
- ④出来た豆乳のもとを布で漉して搾り(残ったものはおから)、鍋に移してこげないようにかき混ぜながら温め、甘い大豆の香りがしたら出来上がり。

昼食には皆で塩焼きそばを作りましたが、これもおいしいと好評でした。また南区 A さんから、手作りの鶏肉ハム、漬物などの差し入れがあり、おいしくいただきました。食後も和やかな雰囲気でお茶を飲んだりおしゃべりして、楽しいひとときを過ごし、皆で後片付けをして終了しました。

### <アンケートより>

今日は皆さんと一緒に豆乳を作って、楽しめました (K さん)



久しぶりにみんなに会って良かったです。豆乳も昼食の焼きそばも、すごくおいしかったです。準備をほんとにありがとう (S さん)

大豆のかおりがして、大変おいしかったです。食後の会話がはずみ、楽しかったです (A さん)



豆乳を目の前で作って飲んで、おいしかったです。焼きそばもピカいちでした。(M さん)

豆乳作り、楽しかったです。帰宅して、おからでハンバーグを作って食べようと思います(M さん)

豆乳の作り方を実際に見ることが出来て良かったです。塩焼きそばもソースの素を使わず、調味料をいろいろ使っていて勉強になりました(M さん)



豆乳作りに参加して、お豆を洗ったり煮たりする過程がとても興味深く、皆さんと一緒に豆乳を作り、飲むのがとても楽しかったです。焼きそばと一緒に作って、皆さんとお話し交流できて、楽しく、美味しかったです。和やかな雰囲気からとても元気をもらえました(学生ボランティア K さん)

能登半島地震の被災地の復旧は、まだ思うように進んでいないようですが、2/20~24に被災地支援のボランティア活動(レスキューストックヤード主催)に参加した東日本大震災・原発事故広域避難を経験した大学生佐藤ららさんに報告・感想を寄せてもらいました。

石川県・穴水町の避難所を訪問して、足湯や個別訪問を中心に活動してきました。

足湯の活動では、温かい雰囲気の中で、避難者の方と顔を合わせ、温まってもらいながら、ゆっくりとお話をすることができました。避難者の方々は、地元の有名な海産物や能登ワイン、地域のお祭りのことなど、穴水町の魅力を私たちにたくさん教えてくださいました。その一方で、「これからどうしていいかわからないよ」、「ずっと気が張っていてしんどいと感じる時があるんだ」、「大切なものが全部なくなってしまった」などつぶやくようにお話しされる方も多く、これからの生活や家族、仕事のことなど、抱えきれないほどの不安な思いを感じている方が被災地にたくさんいるということ、目の当たりにしました。お話の中から、今必要な支援はどんなことなのか、どんなことに困りごとがあるのかが見えてくることもあり、一人一人と向き合い、お話を聞く時間や場所があることがどれだけ大切か、ということを改めて感じました。

個別訪問では、被災してからも在宅で生活を続けられている方を中心に訪問し、現在の生活、健康状態や困りごとなどをお聞きしていく活動を行いました。実際に訪問していく中で分かったこと

は、能登半島地震での被害は住宅の損壊や物資不足ということだけにとどまらず、心身に受けた傷であったり、仕事を失ったりと、人によって本当にさまざまであるということです。被害を受けた自宅を自分たちで補修し、少しずつ片づけをしながら、なんとか生活を続けているという世帯も多くみられました。

足湯の活動と同様に、訪問して実際にお話をお聞きしたからこそ見えてきた問題や課題があったため、住民により近いところから被災した方の支援ニーズを把握し、必要な各機関、団体につなげていくということも、ボランティアの大切な役割であると感じました。

5日間活動させていただいて、穴水町の住民のみなさんや他県からのボランティアの方など、本当にたくさんの人との出会いがありました。その中で、活動している自分も、ほかのボランティアの想いを聞いて刺激を受けたり、被災地の方とお話をしたりしているうちに、自然と元気をもらっていることに気が付きました。被災者の方に対しても、「支援をする側」、「される側」という関係ではなく、人と人のお互いの関わりであるということを感じ、目の前の「その人」に寄り添うことを大切にできるようでありたい、と強く思いました。

## **「能登半島地震被災概要とレスキューストックヤードの支援活動」報告会**

(2024.02.16@レスキューストックヤード・RSY) (編集委員:瀧川裕康)

- ★一次避難所：開設避難所数 259、避難者数 6,934 名
- ★1.5次避難所(スポセン、産業展示館)：開設数 2、避難者数 187 名
- ★2次避難所(旅館、ホテル等)：開設数 237、避難者数 5,227 名
- ★一般ボランティア数：述べ 2,205 名 ★専門ボランティア数：114 団体が全国から自己完結型で活動
- ☆名古屋での街頭募金寄付金額：18,829,708 円
- ☆RSY 現地支援：穴水町(1/3~継続中)炊出し・避難所環境・足湯・看護・福祉支援(2ヶ月間で延べ 1000 人)
- ☆協力団体：藤田医科大学、愛知医科大学、アレルギー支援ネットワーク、愛知弁護士会、愛知県司法書士会、愛知県臨床心理士会などの支援活動が、愛知県避難者支援センターのつながりで活動中。

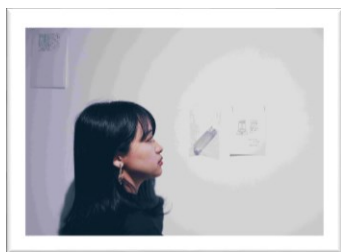


筆者のさいとうえなさんには、これまで『あおぞら』138号、143号、144号に、ユース世代としての感性で寄稿して頂きました。今号は、大学院を修了し東京で就職されるため、最後の寄稿となります。

震災当時、宮城県石巻市の小学5年生だった私は、この春、大学院の修士課程を卒業して、東京で働き始める。予想もしていなかったことだが、就職先では減災に関わる事業に携わることになる。私の経験を少しでも今後の社会に役立てられるように、もっと勉強したいと思っている。

私は大学4年生の時に、ユース世代の被災体験に関するRSYの森本さんの調査に参加して以降、やっと震災当時の自分や、震災以降の街のこと、自分以外の被災者のことを考えられるようになった。それまでも震災の話をするのはあれど、グリーフケア\*(私の場合は、身の回りの人は誰も震災で亡くなっていないので、街の変化や環境の変化に対する悲嘆)が出来ていたかという、きっとそうではなかった。特にユース世代の他の被災者の子たちと東北交流ツアーを企画して参加して、様々な語り部の方の話を書くことや自分で考えたことを人とシェアすることは自分のケアにも繋がっていった。

[\*悲嘆ケア。グリーフ(grief)は、深い悲しみの意。身近な人と死別して悲嘆に暮れる人が、その悲しみから立ち直れるようそばにいて支援すること。一方的に励ますのではなく、相手に寄り添う姿勢が大切と言われる]



私は大学院で研究しながら、現代アートの作品を発表するなど、作家としても活動してきた。

たくさん展示を経験してきたが、有名になることや作品が売れることにはあまり関心が無く、どちらかといえば、アートを通して人や社会と関わることにずっと興味がある。作品は、私の手を離れ

て展示会場に置かれた時点でさまざまな意味を発する。それは私が作品に込めた願いや試みとは、まったく異なる意味を持つときがある。作品と、その作品を鑑賞した人の間にしか発生しないコミュニケーションがある。

私は年々、多くの他者と交流する機会が増えている。その中でよく私は、「私と目の前の人の間にしか発生しないコミュニケーションだ」と意識する。自分の倫理観や知識、言葉選び、自分のクセ、話し方や表情。どれも、なにが、目の前の人にどんな作用をもたらすかわからない。それは、作品の前に立たないとどんな風に作品から影響を受けるかわからないことと同じだ。作品を展示する時も、人と接する時も、私は自分の無知が原因で人を傷つけるかもしれないという不安を抱えている。

それでも、他者と関わることはやめられない。関わることで自分や他者の中のうれしい気持ちを増幅させることだってあるから。それに、人と関わらないと、自分の至らない点に気付けなかったり、気付くのが遅くなったりする。

震災を経験した人同士でも、少し住んでいた場所が違えば、震災の記憶は大きく異なる。私と、これを読んでくれている「あなた」の震災の体験は違っている。これは確実に「違う」と断言できる。だから、人の話に耳を傾ける必要がある。違う記憶や経験を持つもの同士が共存する社会で、私たちは全員語り部になることができるし、よい聞き手になる必要がある。

これから新しい環境に進む中で、自分の無理解によって誰かを傷つけてしまったらどうしよう、と考える。どうにか、諦めずに人と関わること、よい聞き手であろうとすること、学びを少しずつ続けることを目指したい。

## おすすめの一冊

### ① 『イスラエル軍 元兵士が語る非戦論』（集英社新書）

ダニー・ネフセタイ著・永尾俊彦構成

ウクライナ・ロシアの戦争に心を痛めている最中、2023年10月今度はハマス・イスラエル軍の戦争が再発、毎日テレビの痛ましい映像に心が折れそうです。

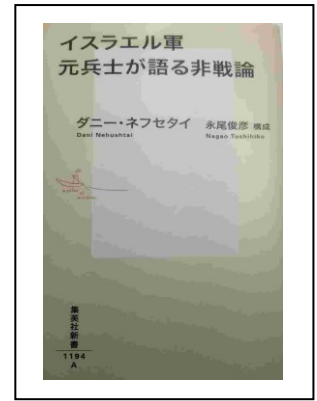
この本で、ユダヤ人について知らないことがこんなに多い、と気づかされました。ユダヤ人がナチスにたくさん殺されたことは知っていたけど、今何故、そのユダヤ人がこんなに沢山人を殺せるのか？止めてほしい！と願うのは、私一人ではないでしょう。

作者ダニーさんは1957年イスラエル生まれ、高卒後空軍で3年間兵役を務めました。1988年埼玉県に移住、自宅のログハウスを建てて木工房を開始。日本人以上に、日本の憲法前文や9条をよく理解しています。地域の活動もしながら、反戦と反原発の講演活動は全国で通算約600回を超えて、2万人が聴いています。私も一度お聞きしたいとおもいます。ここには沢山の知らなかったことが

書かれています。例えば、

①ユダヤ人の歴史 ②イスラエルとパレスチナの戦争の歴史 ③シオニズムなどの言葉の説明等々。

その中で、私は次のような文章に共感します。『私たち一般市民は、安全で平和な世の中を要求する権利があります。私たちの人権は無条件に守られなくてはならないのです』、『北朝鮮からミサイルが発射された時やるべきことは、外務大臣が「安心してください。外交で解決します」というべきです』、『ウクライナ戦争で「敵はロシア」と言うてはいけません。「敵は戦争です」と言うべきです。戦争にはキリがないからです』、『必要なのは「敵基地攻撃能力」ではなく、「近隣諸国との対話能力」なのです』（編集委員：瀧川裕康）



### ② 「侵略日記」 アンドレイ・クルコフ著 ホーム社発行 集英社発売

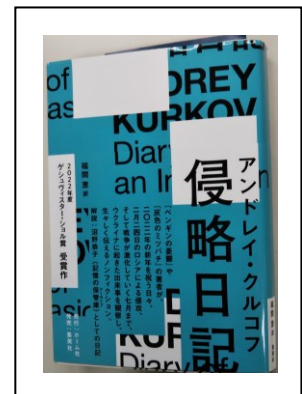
「この日記は、今回の戦争が始まる二か月前に私が書いた文章から始まり、その後に戦争中の記録とエッセイが続く。これは私的な日記であり、この戦争についての私の個人的な歴史でもある。これは私の物語であり、私の友人たちの、知人たちの、見知らぬ人たちの物語であり、私の国の物語である。総合的には、これはロシアがウクライナを侵略した記録であるだけでなく、ロシアから押し付けられたこの戦争一と、独立国としてのウクライナを滅ぼそうとするロシアの企て一が、いかにウクライナナショナル・アイデンティティ強化に寄与したかという記録でもある」と、世界的に著名なこの作家がまえがきに書いている。

2014年の東部での戦争開始から、だんだんと戦争の足音が近づいてくる。そして2022年2月24日、朝5時首都キーウに、ウクライナ全土にロシア軍のミサイルによる爆撃が始まった。「さあ、ロ

シアとの戦争が始まった」と。「ロシアの侵攻が始まる前は、状況は毎日変化していたとしても、今はそれが時間ごとの変化になっている。けれど

私も私はあなたのために、このまま書くし、これからも書き続ける。そうすれば、プーチンのロシアとの戦争の間、ウクライナ人がどう生きるか、あなたに知ってもらえることができるからだ。あなたがどこにしようと、安全にいてほしい」と。その後も、これまでのウクライナとソ連・ロシアとの関係や、筆者はじめ友人・知人の避難生活や戦争の日常も綴られ続ける。

現在進行中の戦争のリアルタイムでの記録、報道に、日本にいる私でも重苦しい毎日に押しつぶされそうになる。（編集委員：戸村京子）



## 【愛知県被災者支援センター・2023 年度活動のまとめ】

\*2012～2019 年度分は省略

2023 年度は暫定

事業名	趣 旨 目 的	2011 年度	*	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
定期便の発送	支援制度、交流会・相談会、新聞スクラップ等の情報提供	(月 2 回) 19 回		(月 1 回) 12 回	((隔月) 6 回	(隔月) 6 回	(隔月) 6 回
機関紙「あおぞら」発行	紙面による避難者が必要とする各種情報と交流の提供	(月 2 回) 19 回		(月 1 回) 12 回	(隔月) 6 回	(隔月) 7 回	(隔月) 7 回
イベント等同時開催交流会	企業・団体による企画(スポーツ観戦、演奏会、舞台等)同時開催の交流会	37 回		/	13 回	13 回	7 回
交流会	避難者同士や避難者と支援者がつながり、思いを共有する場の提供	28 回 延べ 1004 人		21 回 延べ 148 人	8 回 延べ 157 人	8 回 延べ 146 人	12 回 延べ 178 人
相談会	弁護士・臨床心理士など専門家を交えた各種相談対応、支援制度の説明等	16 回		3 回	2 回	1 回	2 回
生活支援品提供	企業・団体等から寄贈された生活物資の提供	1,871 点		(マスク) 1,000 点	/	/	/
見守り活動(個別訪問等)	避難者の状況把握や孤立防止のための個別訪問や電話連絡等	複数頻度(未カウント)		訪問 27 件	訪問 26 件	訪問 26 件	訪問 16 件
支援調整会議	市町村や保健師、社協、専門家等と連携した地域での支援体制の構築	(未カウント)		4 回	12 回	12 回	12 回
市町村訪問	避難者情報を共有し、市町村と連携した地域での支援の定着	複数頻度(未カウント)		延べ 45 市町村	延べ 22 市町村	延べ 40 市町村	延べ 40 市町村
PS 支援チーム	個別支援のための専門家や支援組織等との協議や勉強会などの実施	会議 18 回 勉強会開催		会議 24 回 学習会 2 回	会議 24 回	会議 14 回 セミナー 12 回	会議 12 回 セミナー 12 回
その他	/	/		相談件数: 123 件	相談件数: 154 件	相談件数: 145 件	相談件数: 153 件



【支援情報】「令和6年能登半島地震により 二次避難・広域避難で愛知に来られたみなさまへ」

○「能登半島地震避難者支援ネットワークあいち」（認定NPO 法人レスキューストックヤード内）

被災・避難のこと、支援制度のこと、不安なこと、どこに相談したらよいかわからないことなど、まずは気軽にご連絡ください。

Tel : 052-253-7550 (平日 10:00~18:00)

E-mail : info@rsy-nagoya.com

【名古屋市内にお住いの方の窓口】

○名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンター

Tel : 052-911-3180(平日 9:00~17:00)

電話相談・来所相談いずれもお受けしています。



ウクライナ避難者の近況(あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク:事務局レスキューストックヤード)

《ロシアによる侵攻から2年目》

ウクライナではロシア軍による戦火は未だ止まず、平和な未来が見通せないまま、人々は極寒の二度目の冬を耐えています。日本へ避難している東海地域の避難者は、ふるさとの親族、友人の安否を心配しながら、2月24日(土)に名古屋市で、「戦争反対！ウクライナに平和を！」と訴えました。夜にはテレビ塔で祈りの合唱コンサートにも。



<さっちゃんのレシピ> 【ホイル蒸し】

<材料2人分>

絹とうふ 1/4丁、ちくわ 1/2本、干しシイタケ小2枚、人参 20g、カイワレ大根少々、ゆずの皮適宜

A: たまご 1個、ダシ 90cc、醤油 小さじ1、酒 小さじ 1/2、塩 1つまみ

<作り方>

①とうふは水切りをして細かく崩す  
わは薄く切る

②ちく

③干しシイタケは水に戻し線切りにし、人参も線切りにする ④ ①・②・③にAをよく混ぜ合わせる

⑤アルミホイルで器を2つ作り、④を2等分にして各々に入れ、蒸し器で12~13分蒸す。

⑥蒸しが終わった⑤にカイワレ大根を散らしゆずの皮をのせる。



【編集後記】

- ・私が勤める施設の利用者さんの中に認知症の方がおられます。すごく明るい方で、食事の時は必ず「皆さん食事は楽しく食べましょうね」「それでは手を合わせていただきます」と大声で言われます。他の利用者さんは自然にその声に合わせて、手を合わせて「いただきます」と言って食事が始まります (T.S)
- ・うるう年 4年に一度 年を取る オリンピックも この年実施 / 温かい 終日雨で 春みたい 普段ならこれ なたね梅雨なり / どのレベル 南海トラフ 大地震 どこまでやれる 災害対策 (T.H)
- ・お茶を一緒に飲む。手作りで同じ食事をする。すぐに皆が笑顔になる。楽しくなる。途端に場が和む。こんなさり気ない時間が人と人をつなぐ。信頼感が高まる。当たり前のことかもしれないが再認識(T.K)